北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会　http://miyazawa-lane.com/

事務局たより

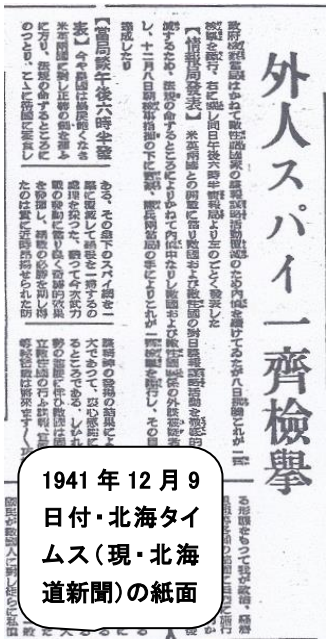
第６号　2016 年 12 月 12 日　chyda-kr@f8.dion.ne.jp
◇事務局　101-0061 千代田区三崎町 2-19-8　杉山ビル 2F
千代田区労協気付　T:03-3264-2905 F:03-6272-5263

12月8日を忘れまい！

75年前の１９４１年12月８日、北海道帝国大学工学部学生・宮澤弘幸は、同大予科英語教師のハロルド・レーン、ポーリン・レーン夫妻らとともに特高に検挙された。暗黒裁判で、宮澤弘幸は懲役15年とされ網走刑務所に収監された。敗戦後、占領軍により釈放されたが獄中生活で体が破壊され、１９４７年２月22日、27歳でこの世を去った。裁判で一貫「冤罪である」と主張し闘い抜いた宮澤弘幸の無念を忘れてはならない。宮澤弘幸らを陥れた国家権力の無法・弾圧を許してはならない。

宮澤弘幸が眠る新宿・常圓寺の墓前で、その思いを噛み締めた。　（福島清、水久保文明）

12 月８日
宮澤弘幸墓参
新宿・常圓寺



外人スパイ一齊檢擧

【情報局發表】米英兩國との開戰に當り敵國のため敵國の對日最後通牒を撤回せしめ…

【當局談午後六時半發表】今や帝國は獨伊兩國と共に戰ひ…

1941 年 12 月 9 日付・北海タイムス（現・北海道新聞）の紙面

内務省の省内記録『外事警察概況』（以下＝内務省記録＝当時は厳秘文書）によれば、「予て非常事態に備えて外諜容疑者名簿を整備し綿密なる内偵を遂げつつありたるが、十二月八日午前七時以降司法及憲兵当局と緊密なる連絡の下に左の如く全国的に一斉検挙を実施せり」とある。

12月8日当日は１１１人だったが、同月中に15人の追加検挙があり、計１２６人が一斉検挙され、他に憲兵隊が52人を拘束した。

この数字は、明るみに出ない冤罪事件がまだ全国各地にあることを示唆する。

冤罪事件の告発に終わりはないのだ！

宮澤・レーン事件を忘れない！
太平洋戦争開戦 75 周年につどう

12. 10 北大ＯＢＯＧの会

12 月 10 日、東京・四谷の主婦会館で開催された標記のつどいに招かれ、「真相を広める会」の現状を報告し、今後の課題を問題提起させてもらいました。

つどいは約 30 人が参加。第二部の懇親会を含め、宮澤・レーン事件と共に、北大ＯＢＯＧとして取り組むべき課題について意見交換し、中で伊藤陽一さんは詳細な資料を基に「軍学共同に反対して―特に北大への防衛施設庁資金の給付を危惧して」と訴えました。

つどい参加者は、今後、世話人会を発足させ、メーリングリストで情報や意見交換を行うと共に、毎年つどいを開催することなどを確認し、最後は腕を組んでの「都ぞ弥生」合唱となりました。

安倍暴走政権下で大学管理が強化され、軍事研究強要の動きが強まる中、北大ＯＢＯＧのみなさんが強く連帯し、現・学生や教職員を激励しつつ逆流に立ち向かう行動を起こしてほしい、切にそう思いました。以下、報告した「現状と問題提起」の抜粋です。なお２人の参加者が『引き裂かれた青春』（花伝社刊）を購入してくださいました。　　（福島　清）

＜現状報告と問題提起（抜粋）＞

１「真相を広める会」の現状と課題

現在、組織活動は停止しているが、個々会員による手弁当活動を展開、対外的な窓口としての事務局も引き続き千代田区労協に置き、原則月１回の「事務局たより」発行と、ホームページ更新を行っている。花伝社版書籍等の販売も継続している。

この間の活動については、最大漏らさず記録して残すべく努めている。その一環として、これまで発行した「会報」、全活動記録、マスコミ報道などを『宮澤・レーン・スパイ冤罪事件　活動記録・資料集』として若干部数を印刷製本し、北海道大学大学文書館、国立国会図書館などに寄贈した。また主要資料は、本会ホームページにＰＤＦで公開している。今後さらに北大生はじめ有為の青年たちが受け継いでくれることを期待したい。

２「真相を広める会」の目的と活動経過

３北大に申し入れた処置と北大の果たすべき責任

２、３略（2016・8・15 会報別冊から要約した内容）

４北大 OB・OG のみなさまへ

以上踏まえ北大の対応を一言でまとめるなら、北大は事件発生から 60 年間無視し続けてきた宮澤・レーン・スパイ冤罪事件について、本会の活動と、秘密保護法策動に反対する世論の高まりなどによって、一時は正面から向き合い、冤罪であることを認め、それを風化させない取り組みをすることを表明した。しかしながら、その後一転して、謝罪と責任明確化、建碑敷地提供など教訓を後世に伝える核心的な行動については全く後ろ向きに戻った――と言わざるを得ない。

2004 年 4 月 1 日に発足した「国立大学法人法」の下で、北大も文科省支配体制が強化されている。その現状は、神沼公三郎氏の『国立大学法人北海道大学の本質―人を粗末にする「選択と集中の競争体」』（「蒼空に梢つらねて―イールズ闘争 60 周年・安保闘争 50 周年に年に北大の自由・自治の歴史を考える」2011. 2. 22 刊）が詳細に告発している。

報道によれば、安倍政権下で、国立大学教員の人件費削減が加速している。北大では人件費 55 億円、教授 205 人分の削減が提案（16. 11. 24 朝日新聞）。また大学や研究機関を軍事研究に動員する「軍学共同」が急速に進められ、2015 年度安全保障技術研究推進制度に旧帝大では唯一北大が応募し採択されている。また学術会議は軍事研究否定見直しを検討している。

世界的な歴史逆戻り傾向が強まる中、安倍政権の暴走も残念ながらまだ続くと考えざるを得ない。その下で大学の研究・教育体制が大きく捻じ曲げられてきている。宮澤・レーン・スパイ冤罪事件のような冤罪・弾圧を引き起こさせないために、同時に大学をめぐる危機的な状況に対して、北大ＯＢＯＧのみなさんが、声を上げ、現役の教職員・学生を励まして反対する運動を起こしていくことが重要だと考える。

関西大学では、「安全保障技術研究推進制度」について、学内の研究者が申請することを禁止する方針を決めたと報道されている（2016. 12. 8 毎日新聞）。「真理に倚って立つ自主独立の自修心」を掲げる北大こそ、本来ならその先頭に立つべきではないだろうか。北大ＯＢＯＧのみなさんが、体力・気力に応じて、励まし合いながら「無理のない活動」で、立ち上がることを期待する。

「1941 年 12 月 8 日検証」
＜論考紹介＞

「真相を広める会」会員の大住広人さんから「1941 年 12 月 8 日―スパイ冤罪・宮澤弘幸検挙時の検証」と題した論考が、以下の報告に添付され事務局に寄せられました。全文は本会ホームページに掲載してありますので、ご一読ご活用ください。

真相を広める会事務局、ならびに元幹事会のみなさま

1941年12月8日　スパイ冤罪・宮澤弘幸検挙時の検証

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会　大住　広人

【はじめに】

12・8 検挙時検証にかかる小論考をまとめましたので添付し、2015・12・5 幹事会決定（Ⅰ-3-⑤）に準じ報告致します。本検証はもともと本会活動の課題として取り組まれたものであり、今回小論考も当活動にかかる中で得た資料・知見が基になっています。

本会組織活動を停止して 1 年、一会員の論考となりますが、本会活動で得た資料・知見を還元する思いからも、本会のみなさま、就中元幹事会のみなさまに閲読願えればありがたく、報告の次第です。

（大住広人・会員、元幹事）

◇会員からのおたより

大住さんの 12・8 論考を読み、記者・ドキュメント作家としてのシツコサに敬意を表します。私は軽く考えることしか出来ませんが二点申し述べます。

①最近月に 1 度北 12 条駅で降りて、北大博物館まで山スキー部の年史編集に通っています。外国人教師の官舎跡を通るのですが、成長の遅い楡の大木は、今でも人間がすっぽりと隠れるほど太くありません。それより官舎を監視しているなら道路側から丸見えだし、通路を監視しているなら官舎側から丸見えです。さらに検挙命令が出ている時間に楡の木に隠れて監視するというのは命令違反ではないかと思います。

②秋間さんの証言は「兄からの伝聞」ですので、聞いた話が事実でも日付を間違えたりするのは責められません。例えば「カニ刑」の話を聞いて、取調べ中の拷問を連想するのは自然な感情でしょうが、実際には刑が確定してからの刑務所内で、脱走を企てた者などを拘束する器具なので「自白しろ」とのカニ刑拷問はありえません。　（刈谷純一・会員、元幹事）

****

構成劇と講演のつどい
宮澤弘幸に何がおきたのか？

12 月 11 日、札幌・北大構内で、「宮澤・レーン事件を考える会」（代表幹事・山本玉樹）「ビー・アンビシャス９条の会・北海道」（共同代表・梅津徹郎）共催による「構成劇と講演のつどい」があった。アメリカ在住の秋間美江子さん、本会から山野井孝有さんらが参加、主催者から計 380 人と報告されました。

構成劇は「エルムに寄せて」と題し、北海道合唱団員 25 人をバックに、宮澤弘幸を演じる佐藤駿輔さん（北大生）を中心に配置し、キャスト全員が前列に並んだ演出でした。事件を演劇にして表現するのは、おそらく初めての試みであり、舞台を食い入るように見る観客の目が印象に残りました。それだけに脚色された劇とはいえ、いかに史実を再現するかが大きな課題だなと痛感もしました。

講演は「戦前の日本と『宮澤・レーン冤罪事件』」と題して、唐渡興宣・北大名誉教授。「宮澤弘幸はどうして逮捕されたのか」「自律的人格の抹殺体制」「宮澤弘幸の人格性の陶冶はどこでなされたのか」など柱を立てて述べたが、全体的には抽象的表現で構成され、冤罪事件の本質から逸脱しているようにも思えました。既に『引き裂かれた青春』（花伝社刊）によって具体的状況が明らかになっており、それで喰い足りなく感じたのかもしれません。

この間、秋間さんが立ち、「兄が囚われてから 75 周年になるこの 12 月 8 日に、北大のどこでもいい、でも真ん中に立ってみたいと思い、やっとの思いで参りました。そして、この劇があることを知ったのです。兄も父も母も、もう一人の兄もさぞかし喜んでいると思います。皆様本当にありがとうございました」とあいさつしました。

また最後に発言を求められた山野井さんが「宮澤・レーン事件を忘れないということは、私たちが命を懸けて戦争に反対するということだと思います」と述べ、大きな拍手に包まれました。　（根岸正和）

【事務局から】

凶暴化する安倍内閣との対決つづく

師が走るほど忙しい月――。私は師ではありませんが、12 月にしてはこんなに忙しい年は初めてです。安倍暴走政治が年末に入ってますます凶暴化しているからです。

戦争で殺されるより、戦争反対の運動で死にたい――これは決して気負いではなく、私が高校生の頃から言い続けている〝座右の銘〟です。人は必ず死を迎えるもの。それを戦争という外からのベクトルではなく、内なる生き方として断固貫きたいという一種の信念みたいなものです。

以下は、千代田区労協専従と同時に「真相を広める会」事務局としての 12 月の行動報告です。

◆２日＝衆院東京１区の野党共闘めざす会議

◆４、５日＝千代田の平和と民主主義運動を進める泊まり込み会議

◆６日＝千代田九条の会事務局会議

◆７日＝新聞ＯＢ九条の会講演と忘年の夕べ。「週刊金曜日」代表の北村肇さん（毎日新聞社会部ＯＢ）が「新聞は憲法を守れるか？」と題して、新聞がまともに報じない「壊憲」の事実を告発し、あるべき新聞への提言を訴えました。

◆８日＝午前は宮澤弘幸の墓参（1 面参照）、夜は区内の大衆運動各分野の懇談会

◆９日＝６９行動

◆10 日＝午前は戦争法廃止を求める千代田超党派議員による宣伝行動、午後は「沖縄新基地建設ノー」日比谷野外音楽堂集会。3900 人が集まりました。沖縄・高江のオスプレイパッド、辺野古の新基地建設を許すなの熱気は、寒さを吹き飛ばすようでした。

＜コラム＞　冤罪忘れるな！⑥

冤圧・マライーニ在日墓

愛知県豊田市東広瀬大根坂 21・廣済寺

「心の会」同人フォスコ・マライーニは、イタリア・フィレンツェの生まれで、同地に葬られているが、廣済寺にも墓がある。同寺が戦時中「敵性外国人」の強制収容所にされ、悲喜を超えた縁。墓石にはフォスコの造語 CITLUVIT（常在啓示）と共に「私の天体　月に帰ります　そして争いのないメッセージを地球に贈ります」と刻まれている。今も山あいに空抜ける禅寺。

フォスコは国際学友会の奨学金によって 26 歳で来日し「心の会」では兄貴格。学問・趣味・運動の万端に多彩で自由な発想と行動力を発揮し、若い仲間の身近な範となったが、国家による冤罪はそんな世界を圧殺した。フォスコ自身は 12・8 前に京大での教職を得て札幌を離れていたが、母国のファシズム政権が敗退し敵国となったことで強制収容所送りとなった。戦後も度々来日し、その心は在日墓に顕れている。

♦　♦　♦

真相に迫る決定版（本会編）

『**引き裂かれた青春**―戦争と国家秘密』花伝社刊

第１部・冤罪の真相　第２部・冤罪事実の条条検証　資料編・判決全文　軍機保護法全文　年表　特別添付・重要事項索引

申し込みは本会事務局までＦＡＸ・メールで（１面上部題字横に掲載）。送料税込み 2300 円。後払い。

植村隆さん名誉回復裁判傍聴を

韓国慰安婦報道攻撃に対して名誉回復を求めて、札幌と東京で裁判を起こしている植村隆・元朝日新聞記者の口頭弁論が、12 月 14 日東京、同 16 日札幌で行われます。この裁判は植村さんの名誉回復にとどまらず、歴史修正主義者たちの野望を打ち砕く闘いでもあります。同時に、いつか来た道に戻ることを許さない、戦争を許さない闘いであると考えています。私は東京・札幌ともに参加します。ぜひ、多くのみなさんの傍聴をお願いするものです。　（水久保文明）